大正期の子どもたちとキャラメル
―絵雑誌『子供之友』掲載記事を手がかりとして―

Children and Caramel in the Taisho Period: Articles in the Pictorial Magazine *Kodomo no Tomo* (The Children's Companion)

酒井晶代
SAKAI Masayo

キーワード：児童文化、『子供之友』、キャラメル

一

戦前期の製菓会社による児童文化事業は、一九三〇年代に質量とも頂点に達する。この時期、森永や明治、グリコ、新高製菓などが競うように商品におまけを付けたり、各種懸賞やイベントを実施している。そしてそれらの事業には巌谷小波や野口雨情、村岡花子など数多くの児童文学・児童文化の関係者が動員された。(1)

こうした事業熱の高まりにはどのような前史があったのだろうか。本稿では大正期に創刊された絵雑誌『子供之友』の掲載記事を手がかりとして、当時の子どもたちと西洋菓子、なかでもキャラメルとの関わりを検討する。

おりしも『子供之友』創刊の年には小箱入りのキャラメル（ポケット用キャラメル）が発売され、短期間のうちに人気商品になっている。また、大正期は「児童文化」という言葉が誕生した時期でもある。(2) 子どもという存在に社会的な関心が向けられるなかで、西洋菓子の社会的な位置づけも変化したと推測される。その一端を探る試みとしたい。

二

『子供之友』は一九一四（大正3）年四月に創刊された絵雑誌である。(3) 発行元の婦人之友社は報知新聞記者の経歴をもつ羽仁もと子、吉一夫妻によって設立され、先行して一九〇三（明治36）年から『婦人之友』（創刊時の誌名は『家庭之友』）を発行していた。また一九二一（大正10）年には自由学園を開校し、教育実践も開始している。『子供之友』はその体裁や形態から絵雑誌に分類されるが、「『家庭』をよい社会への出発点に据え」、(4)「生活即教育」を編集モットーとして掲げたことから、内容に着眼して「生活教育雑誌」と称されること

も多い。[5] 創刊号では早くも子どもたちに「自分で考へて行動するといふ、自治独立の気象」[6] を盛んにしたいとのねらいが表明されている。こうした子ども観は当時台頭しつつあった都市中間層と親和性が高かったと考えられる。

今回は創刊から一九二六（大正15）年発行分までを調査対象とし、計一四六冊分のバックナンバーを確認することができた。[7] 菓子が登場する記事（表紙絵を含む）を発行年月順に示したものが（表1）である。以下、まずはこの表に挙げた五一件の記事の傾向について検討していきたい。

（表1）お菓子が登場する表紙・記事・作品（『子供之友』大正期発行分）

		発行年月（巻号）	タイトル ※無題（＊）の作品は欄名またはテキストの冒頭部を記載	作者（文）	作者（絵）／サインからの推定を含む	菓子の種類	記事内容
	1	大正3年6月（1－3）	＊懸賞	記載なし	記載なし	不詳	家でおやつを食べたあと、訪問先でお菓子を貰った時にどうすればよいかを問う
	2	大正3年7月（1－4）	おやつの答	記載なし		不詳	「家でいただいてきましたから、また今度いただきます」と断るのが正しいとする
	3	大正3年8月（1－5）	＊表紙		北澤楽天	ゼリー？アイスクリーム？	スプーンを手に、お菓子を食べる男の子
	4	大正3年8月（1－5）	＊ポンコハ武雄サンノオルスニカイガンヘアソビニユキマシタ。	記載なし	北澤楽天	ビスケット	犬のポンコがビスケットや枝豆を食べすぎたため、病気になってしまう
	5	大正3年10月（1－7）	＊甲子上太郎	記載なし	記載なし	不詳	始終お菓子を食べているためご飯を少ししか食べない丙子と、間食をせず三時におやつを食べる甲子
★	6	大正4年3月（2－3）	＊『アラ　アンナニ　フクレテ　キタ』	記載なし	北澤楽天	飴	飴細工が出来上がる様子を見る子どもたち
	7	大正4年8月（2－8）	山アソビ	記載なし	記載なし	ビスケット	夏休みで山に遊びに来た一郎、二郎と、樵の子の早太郎がけんかの末に仲良くなる
	8	大正5年1月（3－1）	＊今日ハメデタイ　オ正月	記載なし	竹久夢二	不詳	お正月に母親と子どもたちがテーブルを囲んでいる
★	9	大正5年1月（3－1）	お正月のお小遣ひに十銭づついただきました（甲子上太郎）	記載なし	記載なし	キャラメル	キャラメルを買い、始終食べている乙子
	10	大正5年2月（3－2）	＊丙子サント下太郎サントハ、『オ正月ダカラ』トイツテ（甲子上太郎）	記載なし	記載なし	不詳	「お正月だから」を口実に、夜遅くまでお菓子を食べたり遊んだりする丙子さん、下太郎さん
	11	大正5年5月（3－5）	ガクカウカラキ（甲子上太郎）カヘルト	記載なし	記載なし	不詳	帰宅後すぐ母親にお菓子をねだる中太郎さん
	12	大正5年8月（3－8）	ナツヤスミ　チウニツクワ　ノ	記載なし	記載なし	不詳	三時におやつをたべる子どもたち
	13	大正5年10月（3－10）	＊『ゴメン　クダサイ。』	記載なし	栗原玉葉	不詳	ままごと遊びに興じる少女たち。来客が赤ちゃんを連れてきたため、お菓子をこしらえようとしている
	14	大正5年12月（3－12）	＊花子サン　ノ　ヂヤウブ　デ　キレイナ　歯ガ	記載なし	記載なし	不詳	花子さんは甘い物を食べすぎて虫歯だらけになってしまう
	15	大正6年3月号（4－3）	＊毛氈しいて雛壇かざり	記載なし	記載なし	不詳	雛壇の前で4人の子どもたちが寿司やお菓子、いり豆などの御馳走を食べている
	16	大正6年4月号（4－4）	＊表紙（子供飛行号）	記載なし	北澤楽天	アイスクリーム	飛行機で星の国まで飛行した太郎のもとに、星の国の子どもたちがごちそうを運んでくれる
★	17	大正6年4月号（4－4）	学校ニ行ク途	記載なし	記載なし	キャラメル	キャラメルを食べながら登校する女の子「タベ子さん」が悪い例として登場
	18	大正6年7月号（4－7）	ヨハカツタ花子サン	記載なし	記載なし	不詳	お腹が弱く学校を休みがちであった花子さんが衛生や生活習慣に留意するうちに、次第に健康になる。お菓子は決まった時間（三時）に食べるよう心がけた様子が記されている
	19	大正6年7月号（4－7）	＊ケフハ、ナツ子サンノタンジヤウ日デス	記載なし	記載なし	ケーキ？	ナツ子さんの誕生会。大勢の子どもたちがテーブルで御馳走を食べている
★	20	大正7年2月（5－2）	ゴハウビノ　キヤラメル（甲子上太郎）（懸賞）	記載なし	岡落葉	キャラメル	友達にキャラメルを分ける松子さん、食べながら遊ぶ三郎さん、袂に入れて落としてしまう梅子さん
	21	大正7年6月（5－6）	＊ママゴト　アソビ　オモシロヤ	記載なし	亀高文子	不詳	ままごと遊び。母親役のタミコさんが来客をお菓子でもてなしている
	22	大正7年11月（5－11）	＊オクワシ　ケーキ　ガトー	記載なし	記載なし	不詳	日英仏の「お菓子」を意味する言葉の紹介

		★																
38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23
大正13年12月（11－12）	大正13年11月（11－11）	大正13年9月（11－9）	大正13年8月（11－8）	大正13年8月（11－8）	大正13年8月（11－8）	大正13年5月（11－5）	大正13年3月（11－3）	大正13年3月（11－3）	大正13年3月（11－3）	大正12年5月（10－5）	大正10年7月（8－7）	大正9年8月（7－8）	大正9年6月（7－6）	大正8年12月号（6－12）	大正7年12月（5－12）
＊オカシ　トツタラ　ア　ゲルヨ	ざうの　ごちさう	あめやさん	＊風がないだ	＊あつい　あつい日に	＊これは、わたしのおうち	懸賞	＊馬ヲヒイテ	おかざりお菓子	青い鳥（絵にそへて）	懸賞	タンジヤウビ	＊オヤツノ、ジカンハナンジデスカ（甲子上太郎）	＊表紙	動物の年の暮	＊ワタシガオホキク　ナ　ツタナラ
記載なし	村山知義	村山壽子	記載なし	記載なし	岡内壽子	記載なし	記載なし	タケダ・ユキヲ	西條八十	記載なし	記載なし	記載なし	なし	記載なし	記載なし
横井弘三	村山知義	村山知義	村山知義	ルビエンスキー	武井武雄	武井武雄	村山知義	村山知義	亀高文子	記載なし	村山知義（推定）	記載なし	亀高文子	北澤楽天	記載なし
不詳	不詳	ボンボン、チョコレート、キャンディ、キャラメル	不詳	アイスクリーム	不詳	ライ麦のお菓子	不詳	おかざりお菓子	ゼリー	不詳	不詳	不詳	ゼリー？	あられ	もなか、羊羹、ビスケット、大福餅、栗おこし
背中にお菓子を載せている象と、それを取ろうとしている馬たち	夕食のテーブルで食事をする象	子どもたちにお菓子をくれるあめやさん	帆をおろそうとしている鼠の船員たち。上陸したらごほうびにリンゴとお菓子をやろうと言われている	雪がふればアイスクリームが食べられるのに…という暑い日の空想	室内に玩具、菓子、本がたくさんある「わたしのおうち」	王様のために作ったお菓子が鳥のすみかになってしまう	東京の道では「草が食べたい」と言い、田舎の道では「お菓子が食べたい」と言う馬	お菓子を掲げて楽隊の子どもたちが行進する	ゼリーを食べる子どもたち	お菓子をもらう3人の子どもたち（2×3＝6の計算の出題）	誕生日の祝いの席でお菓子や果物を食べる子どもたち	先生におやつの時間を尋ねられて「三時です」と答える甲子さん、上太郎さん。始終母親にお菓子をねだる丙子さん、下太郎さん	男の子と女の子がテーブルでお菓子を食べている。傍らで犬と猫も一緒に食べている	正月用の買いだし風景。雷が土産用の「ゴロゴロあられ」を売っている	大きくなったら「キレイナオ菓子ヤ」になりたいと夢を語る男の子

菓子の種類が判別できる記事は思いのほか少ない。特に大正中期まではその傾向が顕著である。中期までの記事で、具体的な種類も含め

			★		★			★							
51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39
大正15年12月（13－12）	大正15年6月（13－6）	大正15年4月（13－4）	大正15年2月（13－2）	大正15年1月（13－1）	大正14年12月（12－12）	大正14年12月（12－12）	大正14年11月（12－11）	大正14年10月（12－10）	大正14年6月（12－6）	大正14年5月（12－5）	大正14年4月（12－4）	大正14年1月（12－1）
クリスマス	金魚の学校	大時計	おひきだし	チュウちやんの　おたんじやう日	＊オカシヤの　オカシが	おくわし　と　こぐま（三びきのこぐまさん）	三匹こねこ	あめやのうた	ドウブツ・シヨクドウ	ヂロと鼠	午後三時　おやつ（甲子上太郎）	オテンキノヨイ日　風ノフク日　大雪ノアト（甲子上太郎）
三木露風	武井武雄	武井武雄	村山壽子	村山壽子	記載なし	村山壽子	村山壽子（訳）	よこゐひろぞう	カハイ・スキメイ	タケダ・ユキヲ	記載なし	記載なし
鈴木淳	武井武雄	武井武雄	武井武雄	村山知義	よこゐひろぞう	村山知義	村山知義	よこゐひろぞう	本田庄太郎	岡本帰一	記載なし	記載なし
ケーキ	ビスケット	不詳	キャラメル	ビスケット、チョコレート、ケーキなど	だんご、飴、ドーナツなど	ケーキ	ケーキ	飴	アンパン	洋菓子	不詳	不詳
数字やアルファベットのビスケットを食べて勉強する金魚たち	クリスマスツリーを飾った室内で、子どもたちがお菓子や玩具を手にしている	大時計の「3」の文字盤に、数字の代わりにお菓子とティーカップが描かれている	時計、蜜柑、木の葉、キャラメルの箱などを収めた机の引き出しをあける女の子	チュウちゃんの誕生祝いに、人形や木馬がプレゼントを持ってくる	お菓子屋の商品が店を抜け出し、運動会をして遊ぶ	こぐまたちは描かれた絵をもとにお菓子作りをはじめるが、味付けが分からない。絵をなめてみると材料が分かり、美味しいお菓子を完成させる	マザーグースにもとづく話。手袋を失くした子猫たちは罰としてお菓子を貰えないが、その後、手袋を見つけたためお菓子にありつける	子ども好きな絵描きさんが飴屋さんになる	「ゾウ」のご馳走としてアンパンが登場	お菓子が好きな人間の男の子とご飯が好きな鼠が、両者とも思いがけず好物にありつく	甲子や丙子など6名の子どもたちのおやつの食べ方を紹介	「三時」になる前から間食をする丙子さんと下太郎さん

て西洋菓子であることが判別できる例としては、犬の「ポンコ」が食べすぎて病気になる北澤楽天の絵話（4／大正3年8月号）や、7「山アソビ」（大正4年8月号）のように遠出をする際の食糧としてビスケットが登場する例、あるいは創刊から終刊まで継続的に掲載された絵話「甲子・上太郎」欄[8]においてお正月のお小遣いで買ったキャラメルが登場したり（9／大正5年1月号）、ご褒美にいただいたキャラメルの食べ方が描かれたりする（20／大正7年2月号）など、特別な機会に食べるものとして西洋菓子を描いているケースが目立つ程度である。そもそも大正10年あたりまでは、以後の時期と比べて菓子が記事内に登場する頻度自体が低いことにも注意したい。

大正後期になると登場頻度が増し、同時に文中で菓子の種類が明示されたり、絵から種類が判別できたりする例も増えていく。例えば、29「青い鳥（絵にそへて）」（西條八十・文、亀高文子・絵／大正13年3月号）にはゼリー菓子が登場する。文中には、飛来した青い鳥に向けて「朝のゼリイはやるほどに／ぼくら二人に幸福を持つておいでよ青い鳥」と子どもたちが呼びかける一節がある。メーテルリンクの作品を下敷きとしていると思われる「青い鳥」を登場させ、清新でロマンチックな雰囲気を持つこの作品は、前出の7、9、20のような実生活のなかで菓子を取り上げる従来の記事とは異なる文脈を持つ。後述する36「あめやさん」（村山壽子・文、村山知義・絵／大正13年9月号）には、ボンホンやチョコレート、キャンディ、キャラメルなど様々な西洋菓子が登場する。また50「金魚の学校」（武井武雄／大正15年6月号）には、金魚たちの教材としてアルファベットや数字をかたどったビスケットが描きこまれている。

さらに菓子の種類が明示されはじめることと同時進行で、記事内容も現実生活に即したものから空想的なものへと変化をみせる。特に目立つのは擬人化されたモノや動物たちが菓子や西洋料理をつくったり、食べたりする作品の増加である。

帆船を舞台とした35「風がないだ」（村山知義／大正13年8月号）には、船の乗組員として鳥と鼠が登場する。船は金銀の帆を持つ美しいものとして表現され、船員たちへの呼びかけもまた「赤いリンゴと／おいしいお菓子／をかについたら／ごほうびにやろ」といった調子で、船上が舞台とはいってもその世界はミニチュアやごっこ遊びに通じるような空想的なものと言える。37「ざうのごちそう」（村山知義／大正13年11月号）では象の健啖家ぶりが描かれる。ナフキンを首にかけ、ナイフとフォークをあやつって食事をする象の前には大きなテーブルにパンや目玉焼き、ソースやサイダーなどが並んでおり、種類までは判別できないがプディングかゼリーのような菓子も描きこまれている。42「ドウブツ・ショクドウ」（カハイ・スヰメイ・文、本田庄太郎・絵／大正14年6月号）も、同じく擬人化された犬と象と鳩が洋食を食べる場面を描く。フライ、コロッケ、コンビーフ、マカロニとごちそうが列挙される文中では「ミナサン、ゴチソウ、オサラガマハル、／ナイフガ、ヲドレバ、フオクモヲドル」と彼らの大食漢ぶりが軽やかにうたいあげられる。村山壽子、村山知義のコンビによる

44「三匹こねこ」（大正14年11月号）や45「おくわしとこぐま」（大正14年12月号）もまた、動物たちが菓子を作ったり、食べたりする物語である。マザー・グースのThree little kittensを基にした「三匹こねこ」では、失くした手袋を探し出した褒美として、母猫が子猫たちに菓子を与える。絵では子猫たちの前に切り分けられたケーキのような焼き菓子が並ぶ。「おくわしとこぐま」は、絵を見本として菓子づくりを始めた小熊の三兄弟が、味付けを探ろうと絵をなめて「わかった。わかった。おさとうと、クリームだよ。」と材料を確認するナンセンステールである。

こうした空想性を最大限に発揮し、独特の世界を展開したのが横井弘三であろう。38「オカシ　トツタラ　アゲルヨ」（大正13年12月号）は、象の背中に乗っている菓子を見上げている馬と鹿が描かれる。馬や鹿の姿はデザイン化されており、首の付き方は玩具を思わせる。[9]手前に描かれた極彩色の花や、動物たちの背後にそびえる仏塔風の建物などを含め、その「玄怪な曼荼羅的幻想世界」[10]が見る者の空想をかきたてる作品である。46「オカシヤのオカシが」（大正14年12月号）も同じく奇抜な発想と空想性が楽しい作品であり、擬人化された団子やドーナツたちが運動会に興じる様子が表現されている。

キャラメルをはじめとする飴菓子に限定して以上の変化を検討してみたい。先に掲げた（表1）のなかで、★印を付した記事に飴が登場する。北澤楽天の6（図1）は、飴細工を見る子どもたちを描いており、屋台の飴売りがまだ子どもたちの生活のなかに位置づいていたことをうかがわせる。一方、9ではお正月の小遣いで買ったキャラメルを四六時中食べているふるまいに対して、「乙子さん」という評価が示され、17では登校途中でキャラメルを食べる少女が「タベ子さん」と揶揄される。20（図2）ではお使いのご褒美としてキャラメルをいただいた「松子さん」と、それを分け与えられた「三郎さん」「梅子さん」のそれぞれの振る舞いを「ダレガ甲子サンデ、ダレガ丙子サンデ、ダレガ中太郎サンデセウカ」と評価するよう読者に促している。いずれも現実生活が題材として選ばれていることは明白であろう。

図1　北澤楽天・絵（大正4年3月号）

図2　岡　落葉・絵（大正7年2月号）

36、43、46に至ってこの現実性は一変する。36（図3）は「きみにはボンボン、／きみにはチョコレート、／きみにはキャンデイ、／きみにはキャラメルをあげよう／さあ／いくらでも／もつてゆきたまへ。／すつかり／もつてゆきたまへ。／ぼくは、まだ、／やまほど／やうふくのしたに／かくしてゐるからね、君。」と子どもたちに景気よく西洋菓子をふるまう「あめやさん」を表現した作品である。絵にはハットをかぶり、燕尾服を身に着けた恰幅の良い男性が「あめやさん」として登場し、後ろにはコックコート風の服装をした助手のような人物も描き添えられている。43や46の横井の作品は、西洋的な村山の作品とは異なる味わいを持つが、空想性や非現実性という点で共通点をもつ。

「甲子・上太郎」欄を例外として、この時期になると現実生活を直接描いたものは相対的に少なくなる。そのなかで異彩を放つのが48であろう。「紙でも／ペンでも／木の葉でも」「卵のからでも／みかんでも」「針でも／糸でも／時計でも」「なんでも／かんでもはいつてる／大きな机のおひきだし」のように文中には菓子が

図3　村山知義・絵（大正13年9月号）

登場しない。しかし武井武雄は文中に登場するものに加えて、絵のなかにキャラメルの黄色い箱を描き込んでいる。引き出しの中身を持ち主である少女の日常世界の投影と読むならば、ここではキャラメルが紙やペン、針や糸と並ぶ身近なものの一つに位置付けられていると言えよう。お正月やご褒美など特別な場面でキャラメルが登場していた前半期と比べると、日常生活（とはいってもモダンな都会での日常生活という限定付きではあるが）のなかにキャラメルという西洋菓子が定着している様子がうかがえる。

江戸の風情を感じさせる飴細工師から、タキシードと山高帽を身に着け、洋服の下から西洋菓子を次々に出してくれる不思議なあめやさんへ。この変化は、「粋な雰囲気」[11]を持ち味とする北澤楽天から、ベルリン留学中に構成主義やダダに接し、マヴォをはじめとする前衛的な芸術運動のリーダーとなっていく村山知義へと、『子供之友』において誌面を支える書き手・描き手の世代が交代する時期とも一致する。[12]武井武雄によって「童画」という言葉が初めて使用されるのは一九二五（大正14）年のことであるが、村山知義や岡本帰一らを含め、のちに童画というジャンルを立ち上げていくことになる若い作家たちの登場[13]と軌を一にするように、大正中期以降、お菓子に関する記事もダイナミックな変化を見せるのである。

三

大正期は工業化と都市化にともない、都市への人口集中が進行した

時代にあたる。湯澤規子は「食べる」という行為に立脚して大正期の社会の様相を考察した著書『胃袋の近代』において、都市部に流入し製造業や商業に従事することになった彼らの大半が「食糧の自給的生産基盤をもたず、生活物資を購入に依存せざるをえない」立場に置かれていたことに注意を促している。[14]

一方、西洋菓子の原材料に着眼すると、明治末までに砂糖や牛乳をめぐる状況に大きな変化が生じ、大量生産の条件が整っていったことがわかる。武田尚子は『ミルクと日本人』のなかで、牛乳の消費ルートに着眼して大正期を「キャラメルの時代」と命名している。[15]同書によれば一九一三（大2）年に実用化された真空釜によって煉乳の製造時間が大幅に縮小され、機械による大量生産が可能となった。また日露戦争を背景として砂糖にかけられていた消費税が段階的に見直され、一九一一（明治44）年には輸出用菓子の原料に関して課税が撤廃される。こうして「明治末までに製造技術と砂糖価格の両面の課題が解決され、大正期に煉乳の大量生産が可能になった」[16]ことにより、キャラメルが人々の暮らしに浸透するための条件が整っていく。

社史によれば森永製菓が「ミルクキャラメル」の名称でキャラメルを発売したのは一九一三（大正2）年のことであった。[17]当初はバラ売りであったが、翌年に開催された東京大正博覧会の土産用として箱入り（20粒入り10銭）を試売したところ大好評を博す。ほどなく一般発売されるようになると「売行きは爆発的で、それに対応するため、大正四年七月急ぎ大崎工場（東京第二工場）を新設、次いで大正七年一月には大阪大仁工場（大阪第三工場）を竣工」するまでの看板商品となっていく。[18]生産体制の拡張にともない、同社の職工数は一九一四（大正3）年の四〇〇人から一九一六（大正5）年には三〇〇〇人にまで急増し、この間に製造量も四倍まで上昇した。[19]同社は原材料の安定供給のため、一九一七（大正6）年には千葉県下の煉乳会社を買収し日本煉乳株式会社を設立、翌年以降も引きつづき静岡、兵庫、神奈川、佐賀と大正期の間に各地に煉乳工場を新設する。[20]第一次世界大戦によって外国製の乳製品の入手が困難になったという事情もこの急速な拡張を後押しした。

このように短期間で普及しはじめたキャラメルを手にしたのはどのような人々であったのだろうか。一九一五（大正4）年の『菓子新報』には次のような記事が掲載されている。

世人同好者も能く識る如く森永製菓のミルクキャラメルは近来非常の発達を来し売行日を逐ふて熾んなり 由来美麗なる包装に搗て、加ふるに厚紙包みと為しポケット入に便なる上価格も低廉なるに付極めて人気に投ぜり 殊に品質よく美味に加之ならず滋養専一その電車広告に示す如く「天二物（煙草と菓子）を与へずんば僕はミルクキャラメルを採（ママ）るよ」とあるは真摯に解釈されて毫も疑ふべき余地なし 試みに二三箇を味へば気力頓に復し数時間の執務に堪ゆ 原料は飴とミルク其他香料を混合せるものにして其滋養分に富める敢て説明の要なし 斯る文明的嗜好品が世人に歓迎せらるゝ決して理由なきに非ざる

也[21]

「天二物を与へずんば僕はミルクキャラメルを採るよ」という文案は、その斬新さで当時話題になったという[22]。実際のポスターにはこの文案の隣に「煙草代用」という言葉も記されており、キャラメル販売のスローガンとしてその後も継続的に用いられた[23]。もともと箱入りというアイデア自体が紙巻煙草用の紙サックからヒントを得たものであり[24]、キャラメルの当初のライバルが煙草であったことは間違いない。発売当初のミルクキャラメルは、大人たちによって「文明的嗜好品」として受け入れられた側面があると言える。一方、天野正子は『モノと子どもの昭和史』のなかで「キャラメルはミルクやバターを使用しており、石鹸臭いとか牛乳のにおいがするなど、大人には敬遠されたといわれる。しかし、味覚に柔軟な子どもたちは、ミルクと砂糖の混じりあった味を素早く自分のものにしてしまったのである」と指摘する[25]。もちろん大正期に西洋菓子を享受できた階層は限られており、引用中の「子どもたち」とは、『子供之友』の主要読者層と同じく都市部の裕福な子どもを指すであろう。

本田和子は消費文化としての「大正文化」の誕生と、そのターゲットとして子どもと女性が浮上していくこの時代の状況を次のように指摘する。

一九〇九（明治42）年四月、三越百貨店は、一ヶ月にわたる長期の「児童博覧会」を開催している。三越は、当時、欧米流のデパートメント・ストアーを目指して、文化人・知識人らをも巻き込み、意欲的な多角経営を試み始めていた。（中略）

大都市に出現したデパートは、地下室を設け地上五階あるいは七階などの高層ビルによって、建築的にもその威容を誇った。以後、デパートは、大都市を象徴し、都市の景観と不可分の重要施設となる。これらデパートを含む都市景観は、まさしく、近代日本が「明治の生産型文化から、大正の消費型文化へ」という移行しつつある時代を、「見える形」で表現するものであった。こうした生活文化の需要拡大は、当然のことながら文化産業の発展を促し、それらの成果を必要とする都市中間層の発達と連動して、時代の文化に新しい色調を与えていく。これが、「大正文化」と呼ばれるものの出現であった。

文化産業を意図するデパートにとって、次に浮かび上がってきたのが、「子ども」と「家庭」を市場に組み込む戦略であった。先の「児童博覧会」は、それを代表する催しである。このとき、デパート経営者たちの視界に、都市空間に跳梁する「子ども」たちが、格好の標的として像を結んだのであろう。新しく資本市場に躍り出たデパートメント・ストアーなる新商店の戦略基盤は、言うまでもなく、「市場の原理」であろうが、二〇世紀の資本主義社会を支配した「市場原理」が、新しい顧客層として「子ども」を位置付けた結果、彼らを取り込もうとして新種の商戦が開始されたのである[26]。

本田は西洋菓子のターゲットが大人から子どもへと推移しはじめる時期を「大正中期」とみる。この時期から「家庭教育」や「衛生観念」といった思想が新しい価値として家庭に持ち込まれた結果、「子どもが好むままに食べ物を口にし、親がそれを許容する従来型の庶民の暮らしぶり」が、「「前近代的」で「品位に欠ける」と指弾され」る。そして、これに代わり推奨されたのが「定まった時間に洋菓子の皿を用意される子ども」であり、彼らこそが「「よい家庭」の「よい子」」であるという価値観が都市中産階級の親たちに共有されていく[27]。この「定まった時間に洋菓子の皿を用意される子ども」が、『子供之友』の「甲子上太郎」欄で繰り返し描かれた目指すべき子ども像にぴたりと一致することは言うまでもない。同様に神野由紀も洋菓子メーカーが本格的に子ども市場に目を向ける時期を「大正半ば以降」としている。神野によればこの時期の「洋風化」は、「明治期のような贅沢の証ではなく、合理的な生活として」中間層に提示された[28]。

このように産業史や社会史の上でも、大正中期は西洋菓子の受容にとって大きな転換点であった。さらに留意すべきは「都市部の中間層は、大家族のような伝来の知識を持たず、主婦たちは女学校や新聞・雑誌などで学んだ知識を家庭に持ち込むようになった」[29]という点であろう。都市中間層は消費において知的な情報を重要視した。キャラメルをはじめとする西洋菓子は、教育やメディアの影響下で子どもたちに受け入れられていく。『子供之友』のような子ども向けの雑誌もまた、その一翼を担うことになったと言える。

他方、労働者たちとってキャラメルはどの程度受け入れられていたのだろうか。前出の『ミルクと日本人』では一九一八（大正7）年から二〇（大正9）年にかけて東京市内の月島で実施された「月島調査」に基づいて、四〇世帯の一ヶ月あたりのキャラメルと牛乳の消費金額が図表化されている[30]。この表によるとキャラメル購入歴があるのは一五世帯のみで、一ヶ月あたりの消費額も一銭から八銭ほどと少額にとどまる。当時の森永ミルクキャラメルの定価（20粒入10銭、10粒入5銭）を踏まえると、せいぜい年に数箱程度の量である。牛乳も購入歴のある世帯は一四とほぼ同数だが、月あたりの消費額は多い世帯だと四円にものぼり、生活への浸透ぶりは比べるべくもない。

「月島調査」には菓子に関する統計がいくつか見られるが、それらは駄菓子屋に関するもので占められている。一九一九（大正8）年当時、この地域には一三一軒もの駄菓子屋があり、報告者は「実に長屋の列びゐる路次の入口には駄菓子屋店を開くもの多く、甚しき場合には道路の両端に、しかも各端の両側に、駄菓子屋を見ることさへある」とその数に驚くとともに、「児童はその駄菓子屋を本拠となして、其の附近にて、多数集まつて遊び戯れゐる有様」と盛況ぶりを記している[31]。店頭に並ぶ菓子として、ナンキンマメ菓子、カヅノコ、ダンベロ（飴菓子）、アメンボー、キンカトウ、マメイタ、オコシ、アンコダマなどが列挙されているなかに、当然ながらキャラメルは見当たらない[32]。世帯によっては子どもたちが「日々各人二三銭宛の菓子と親しんでゐる」との報告[33]もあり、彼らが親しみ、お金を費やしてい

たのは駄菓子であった。このように労働者世帯の子どもたちにとって、キャラメルが身近な菓子でなかったことも忘れてはならない。

四

戦前期の森永製菓は、広告宣伝を活用して販路を広げた企業として知られている。当時のキャラメルは現在のような高い保存性を有していなかったため、製造から販売までの回転を速くする上でも宣伝に力を入れる必要があったという。

社史によれば、ミルクキャラメルの単独広告はバラ売り時代の一九一三（大正2）年八月に始まる[34]。オンライン・データベース「ヨミダス歴史館」を用いて大正年間の「読売新聞」に掲載された森永製菓の広告を検索すると、五一四件がヒットする。さらに「キャラメル」をAND検索して絞り込んだ二三九件を一覧にまとめたものが（表2）である[35]。広告中に「煙草代用」[36]の語が用いられているものを◆印で示した。

（表2）大正期『読売新聞』掲載「森永キャラメル」広告一覧

西暦	元号	掲載日		広告文案（抄）
1914	大正3	4月17日		森永の菓子　ミルクキャラメル
		7月12日		森永の菓子　ミルクキャラメル　名誉大賞牌受領（於東京大正博覧会）
		10月17日		森永の菓子　国産主義実行　輸入防止輸出の先駆　於大正博覧会　名誉大賞牌受領
1915	大正4	1月31日	◆	煙草代用　ミルクキャラメルは現代の必要品也
		3月20日	◆	いよいよミルクキャラメルの季節は来れり
		4月4日	◆	煙草代用　今や全国到る所森永ミルクキャラメルの売行旺盛なり　是れ元気充実を必要とする時代の要求なり!!
1915	大正4	4月11日	◆	煙草代用　滋養に富み風味絶佳なり　常に用ゆれば　胃腸の調和を能くし咽喉を整へ　心身の疲労を医し元気を増す
		5月10日	◆	滋養に富み風味絶佳なり　常に用ゆれば　胃腸の調和を能くし咽喉を整へ　心身の疲労を医し元気を増す
		5月18日	◆	一気五百哩を突破す　四月二十六日吾海軍航空隊が欧米先進国のレコードを粉砕せる　名誉ある馬越中尉のポケットに　森永ミルクキャラメルありしを知れりや
		5月21日	◆	元気を増す　野外運動に！　遠足に　欠くべからざる必要品なり
		6月11日	◆	追々と陽気はわるし　御菓子の御選択が肝要
		6月16日	◆	森永ミルクキャラメルの商標
		6月19日	◆	強健たる身体も　溌剌たる元気も　お児さん方の発育時期に尤も多く嗜好せらるゝ菓子のよしあしに由りて大差あるものなれば此の点に注意して製造したる
		6月22日	◆	追々と陽気はわるし　御菓子の御選択が肝要
		6月26日	◆	煙草のみ過ぎて　頭脳の悪き人　又た太らぬ人　煙草の代用に　他の嗜好を求めらるゝ人
		6月29日	◆	煙草のみ過ぎて　頭脳の悪き人　又た太らぬ人　煙草の代用に　他の嗜好を求めらるゝ人
		7月4日	◆	中元夏中御進物品　いづれの家庭にも歓迎せられ　売行益々旺盛なる　森永ミルクキャラメルの御選定を乞ふ
		7月9日	◆	中元夏中御進物品　いづれの家庭にも歓迎せられ　売行益々旺盛なる　森永ミルクキャラメルの御選定を乞ふ
		7月11日	◆	森永の菓子　中元御進物品　煙草代用ミルクキャラメル　スキートホーム　スポンジメキスト　ポケット入アンズ　ヌガー　ミルクキャラメルヌガー　ポケット入パール
		7月14日	◆	この夏の　倦怠を如何にせん？　特有せる滋養成分に依りて　元気を旺盛にし　健康に愉快に　永き夏の日を送ることを得べし
		7月20日	◆	この夏の　倦怠を如何にせん？　特有せる滋養成分に依りて　元気を旺盛にし　健康に愉快に　永き夏の日を送ることを得べし
		8月5日	◆	此の夏の衛生を如何せん？　家庭・旅行・避暑・事務　酷暑を忘れて心身共に強健ならんと欲せば
		8月8日	◆	此の夏の衛生を如何せん？　家庭・旅行・避暑・事務　酷暑を忘れて心身共に強健ならんと欲せば
		8月12日	◆	夏季は殊に菓子の御選択が肝要　お児さん方の尤も多く嗜好せらる菓子のよしあしによりて発育を助くる上に大差あるものなれば此点に注意して製造したる
		8月16日	◆	此の夏の衛生を如何せん？　家庭・旅行・避暑・事務　酷暑を忘れて心身共に強健ならんと欲せば

1915	大正4	8月19日	◆	此の夏の衛生を如何せん？　家庭・旅行・避暑・事務酷暑を忘れて心身共に強健ならんと欲せば
		8月25日	◆	夏季は殊に菓子の御選択が肝要　お児さん方の尤も多く嗜好せらる菓子のよしあしによりて発育を助くる上に大差あるものなれば此点に注意して製造したる
		8月28日	◆	品質本位と顧客本位は　森永ミルクキラヤメルの主義と生命なり
		9月5日	◆	健康は奮闘の生命なり
		9月9日	◆	天高く馬肥ゆる秋の野に　一家打揃ふて清遊の時　森永ミルクキヤラメルを携帯せば　又一層の興味を添ゆべし
		9月12日	◆	いよいよ運動の季節となれり　勇ましい旅装で　行け山に・河に・野に
		9月22日	◆	健康は奮闘の生命なり
		9月29日	◆	今や当に運動の好季節　勇ましい旅装で　行け―山に―河に―野に　森永ミルクキヤラメルを忘れずに　渇を医しつゝ　元気を増しつゝ
		10月4日	◆	猛虎一声山川揺ぐが如くに　森永ミルクキヤラメルの売行旺盛なるは　現代製菓の四大要件たる風味、消化、滋養及清潔を完全に具備せるが為めなり
		10月19日	◆	読書の好季到る！　長時間勉学の倦怠も　終日活動の疲労も　常用せば元気を快復し無限の精力を増進す
		10月23日	◆	国産　安心して食べられる菓子　輸入煙草代用品の防止
		11月6日	◆	国産　実例　喫煙時代の写真・体重十三貫八百目　森永ミルクキヤラメル愛用当時の写真・体重十八貫四百目
		11月9日	◆	国産　「安心して食べられる菓子」
		11月12日	◆	森永製菓の光栄
		11月26日	◆	国産　「安心して食べられる菓子」
		11月28日	◆	国産　「安心して食べられる菓子」
		12月19日		森永の菓子　歳暮　クリスマス　御進物　森永ミルクキヤラメル　森永ゼリビンズ　森永万歳ヌガー
1916	大正5	1月23日		新春の劈頭　本年の家庭常用　菓子はと問はゞ　応へて曰く
		4月13日		問題　なぜ森永ミルクキヤラメルは能く売れるか　理由五個条を挙げてください
		4月19日		森永懸賞字さがし
		5月6日		金太郎のやうに肥る菓子　鯉のやうに元気つく菓子　矢車のやうに鳴響く菓子　世界で一番売ツ子の菓子　安心して食べられる菓子
		6月20日	◆	諸君　自愛せよ　健康と元気を保つに　総ての要素を具備せる　森永ミルクキヤラメル
		7月8日		中元暑中御進物用　安心して贈られる　森永ミルクキヤラメル　スキートホーム　スポンジメキスト

1916	大正5	8月7日	◆	夏が試金石　炎暑に倦まず又屈せず　いよ〳〵元気旺盛なる諸君は　平生御愛用せらるゝ本品の効験を今ぞ自覚し給ふべし
		9月1日	◆	何より安心　秋は食物の御選択が肝心　是さへあれば健康は保証
		10月19日	◆	熱球飛んで　森永ミルクキヤラメルの威力顕はる
		11月15日		見る目に同じ　秋山の茸にも御存じの口にされぬのがあり升　菓子の中でも安心して食べられますのが　此森永ミルクキヤラメル
		12月10日		歳の暮　年の始　斯く美しく清らかに　斯く賑しく幸あれと　贈りませや　森永の菓子
1917	大正6	1月7日	◆	あがれやあがれ！　あがるほど元気づく森永の菓子
		1月18日	◆	天下無敵　実質の抜群！　能力の卓越！
		2月24日		全くです　咽喉の障害を調節すべく　今や御常用の最適品として万人に認めらるゝは唯
		3月3日	◆	春が来た　何処にきた　野に山に！　袖に袂に！　携えたまへ　森永ミルクキヤラメル
		5月9日	◆	オリンピック！　諸君のポケットに用意すべきものは
		6月17日		消化　滋養　風味　清潔　此四大要件を目的として　当社独特の製法に由れる
		6月22日		消化　滋養　風味　清潔　此四大要件を目的として　当社独特の製法に由れる
		10月2日	◆	煙草代用の第一弾　時代の要求に敵中して　名声四方に轟然たる
1918	大正7	4月19日		咲いた桜　山行け　野行け　手には　何より　森永ミルクキヤラメル
		5月15日		極力　品質を向上せしめて　今や嗜好界の覇権を握る
		6月2日		君よ　味ひ給へ　初夏気分！　それよりも清新なる　森永ミルクキヤラメル
		6月9日		何より　安心！　ツユときの　森永ミルクキヤラメル
		6月24日		森永ミルクキヤラメルの声価は今や轟轟として世界の市場に響く　見よや向上せる製法！品質！そこに科学の権威ありそこに信用の力あり
		7月2日		森永の菓子　中元暑中
		7月6日		森永の菓子　中元暑中　ミルクキヤラメル　スポンジメキスト　ゼリビンズ
		7月17日		一ィ　二ゥ　ミルクキヤラメルは森永！
		8月9日		国論は一致す
		9月8日		僕の級！　それは勉強家活動家の集団で　そして勿論平素煙草代用の　森永ミルクキヤラメル愛用組！
		9月16日		ミルクキヤラメルは　うーまいな　森永のせいざうでやしなひになつたり　煙草の代りになつたり　はる、なつ、あき、ふゆ　日本中で　たーべる

1918	大正7	9月30日	主力はモリナガにあり！　キヤラメルの主力は　森永ミルクキヤラメル！
		10月5日	主力はモリナガにあり！　キヤラメルの主力は　森永ミルクキヤラメル！
		10月27日	◆
		11月10日	散歩に　遠足に　運動会に 母よ　忘れますな　愛児のために　カゼにはノドをとゝのへる　森永ミルクキヤラメル
		11月17日	母よ　忘れますな　愛児のために　カゼにはノドをとゝのへる　森永ミルクキヤラメル
		2月10日	◆
		2月11日	カゼにはノド　ノドには　森永ミルクキヤラメル 風ふこが　雪ふろが　嬢やのノドをとゝとのへて　坊やのカゼもひかせぬは　森永ミルクキヤラメル
		2月20日	感冒に　咽喉の保護に調節に　身体の保温に強壮に
		3月12日	春が来た　何処に来た　野に山に　袖に袂に　携へたまへ　森永ミルクキヤラメル！
		3月20日	森永ミルクキヤラメル　僕にあり　行く処をして必ず一等！
		4月4日	春は　春は　花の盛りを此菓子に　若やぐ君が血よ肉よ
		4月12日	さくら〳〵　やよひのそらは　どなたのたもとにも　いざや〳〵　森永ミルクキヤラメル
		4月14日	見よや熱球！　来るところ那處ぞ。曰く森永ミルクキヤラメル　常用家の鉄腕より
		4月16日	春は佳し　この菓子ありて　さらに好し
1919	大正8	5月9日	万歳々　手に・口に
		5月29日	森永ミルクキヤラメル　定価改正　大・十二銭　小・六銭
		6月1日	森永ミルクキヤラメル　定価改正　大・十二銭　小・六銭
		6月17日	安全週間　梅雨時も本品愛用者には　衛生上の安全週間なり
		6月20日	今日　此頃の衛生に絶対安全の品質は唯り
		6月23日	森永ミルクキヤラメル　定価改正　大・十二銭　小・六銭
		7月13日	山行かば　渇きたるときの水　飢えたるときの糧
		7月24日	山行かば　渇きたるときの水　飢えたるときの糧
		8月10日	山行かば　渇きたるときの水　飢えたるときの糧
		8月17日	元気溌剌　泳いで　食べて
		9月6日	森永五品　森永バニラチヨコレート　森永ミルク　森永ミルクチヨコレート　森永ミルクココア　森永ミルクキヤラメル
		10月10日	秋は月　菓子は　森永ミルクキヤラメル
		10月20日	見よや熱球！　来るところ那處ぞ。曰く森永ミルクキヤラメル　常用家の鉄腕より
		11月2日	森永ミルクキヤラメル　拾銭売発売
		11月14日	人気集注！　一輪の白菊に比すべき

1919	大正8	11月28日	慈母あり　此菓子なかるべからず
		12月8日	進物は　保健と　滋養と　風味とを兼ねて　現代の嗜好に適する　森永の菓子　最高の声価あり
		12月25日	飛行　将に白熱せんとす!!　飛行家の常用　森永ミルクキヤラメル
		12月27日	飛行　将に白熱せんとす!!　飛行家の常用　森永ミルクキヤラメル
		1月11日	梅花一輪　先づ　平和の春を告ぐ
		2月4日	感冒に…転ばぬ先の杖　…備へよ！　咽喉を調へ気力を増す　森永ミルクキヤラメル
		2月9日	◆
		2月9日	梅が笑へば　柳が招く　両ながらの嗜好品!!
		2月17日	◆
		2月17日	梅が笑へば　柳が招く　両ながらの嗜好品!!
		3月9日	桃から……生れた元気は昔　現代少年の気力は
		3月19日	花か…か…蝶か　何らでも佳し　真に佳し
		3月25日	行楽の…絶好季　愛用の高調期
		4月3日	新学期来る！　諸君の力強き相談相手は
		4月7日	花か…蝶…　何れも佳し　真に佳し
		4月12日	◆
		4月12日	春はよし　野に山に　すみれ　たんぽぽ
		4月17日	行楽の…絶好機　愛用の高調期
1920	大正9	5月16日	◆
		5月16日	満天下　御贔屓
		5月23日	◆
		5月23日	健児　溌剌たる処常に此菓子あり
		6月8日	◆
		6月8日	緑陰の楽み　必ず此の菓子！　袂にも、ポケットにも
		6月23日	◆
		6月23日	疲労より元気へ　倦怠より緊張へ
		6月27日	◆
		6月27日	高きへ！　更に高きへ！　精力の増進！
		7月5日	◆
		7月5日	高きへ！　更に高きへ！　精力の増進！
		7月12日	◆
		7月12日	精力！　君に此菓子の常備ありや？
		8月8日	◆
		8月8日	一つ食べては　波の上　泳ぎ疲れりや　二つ三つ
		8月17日	◆
		8月17日	海行かば　溌剌と水の中　悠々と舟の上
		8月23日	◆
		8月23日	一つ食べては　波の上　泳ぎ疲れりや　二つ三つ
		8月29日	◆
		8月29日	海行かば　溌剌と水の中　悠々と舟の上
		9月6日	◆
		9月6日	ヒマワリの　廻れば廻るほど　新涼の生気は漲る　健体はより健体へ！
		9月11日	◆
		9月11日	営養的嗜好品の愛用は　試験通過の半面
		9月21日	◆
		9月21日	ヒマワリの　廻れば廻るほど　新涼の生気は漲る　健体はより健体へ！
		10月1日	◆
		10月1日	一人ももれなし
		10月22日	◆
		10月22日	精力の母　猟者の友！
		10月28日	◆
		10月28日	灯火親しむ頃　更に親し
		11月13日	◆
		11月13日	今や野山の錦幕　自からなる活画図に　遊べる子等の楽しみは　手に手に翳す金色の　森永ミルクキヤラメル
		12月9日	御進物　優美なる化粧箱入

1921
大正10

1月1日	◆	精力！　君に此菓子の常備ありや？
1月16日	◆	スキーのドンキホーテは銀世界の平野を自由自在に駈け廻る。そして時々ポケットから唯一の嗜好物を取り出して食べて居る
1月26日	◆	坊やの意匠……現代の雪だるま！　坊やは此の雪だるまを作り上げる迄に中身のキヤラメルを皆平らげて了ひました
2月12日	◆	何のその　寒さも　流感も　保健強壮の保証第一！
2月20日	◆	此の絶好の伴侶あり　快なるかな探梅
2月27日	◆	美ちやんの発案！　美しく愛らしいお雛祭のお供物の中に森永のミルクキヤラメルが無くては不可といつて美ちやんは数々買つて貰ひました
3月14日	◆	花ちやんの喜び　兄さんが中学の入学試験を受ける為めに勉強する時、机の抽斗から始終森永のミルクキヤラメルを出して食べて居るのを見て居た花ちやんは、兄さんの入学が出来た時、それはキヤラメルのお蔭だと言つて兄さんよりも嬉しい顔をして居ました。それから花ちやんも学校に行くやうになつて、キヤラメルを欠さず持つて居るやうになりました。
4月7日	◆	三日前から　外出の時には必ずキヤラメルを買つて貰ふ積りで居る坊や、「今度の日曜には上野へ花見に連れて行かう」と言はれ、早速「森永のミルクキヤラメルを頂戴」といふ。それが未だ三日も前だ…三日見ぬ間の桜とはいふが、これも亦気が早い。
4月15日	◆	粒一粒　競技は回一回、球一球と白熱して来る。そして選手も観客もキヤラメルを粒一粒と指頭から口に運ぶ。
5月1日	◆	ねばならぬ　K君の近頃　ねばならぬものが　三つある　ペンにインク…ラケツトにボール…それから口にキヤラメルだ！
5月22日	◆	嬉しい初夏　新緑を渡る五月の風の此上なき肌心地は郊外散策の人にしか味はれない。そして袂から取り出して嗜むキヤラメルの一入の味をも
6月17日	◆	世界一の生産年額に到達した森永ミルクキヤラメルは皆様がお見違ひも御座いますまいが、キヤラメルの類似品は既に四十余種を数へております。
7月6日	◆	嗜好品として、而も滋養品として、夏の　倦怠と疲労とに備ふべきは　たつた一つ
9月1日		奉迎　皇太子殿下御帰朝
10月23日		健康の友　森永のミルクキヤラメルを召さるれば爽かな秋空に一入の御気分も勝るべく、散歩に、探勝に、遠足に欠かされぬものとして此の上なき健康の矜りを自から覚り給ふでせう。
12月14日		森永製　御進物　総て優美なる化粧箱詰

1922
大正11

1月8日		森永の昨年は
1月15日		新春の歓び　かるたの友
3月26日		春はうれし　行く処として花ならざるはなく、見る人をして此品を携へざるはなし
4月14日		奉迎
5月7日		たやすき解決　未成年者禁酒の実行
5月18日		力が漲る…　平常の滋養分!!!
6月12日		初夏は　散歩によし　運動によし　読書によし　その淡き疲労を補ふにキヤラメルを採れば更に心地よし
7月3日		森永の菓子　贈る幸ひ　受る喜び
7月8日		登山者曰く　路ある山は大概森永のキヤラメルのサックが落ちて居る。路の無い峻峰を攀じ登る時、此所にもかと驚くことがある
8月4日		海の勇者……キヤラメルの愛用者！
8月13日		起きて三つ　寝て三つ　坊やは六つ食べ
8月21日		山に行くならキヤラメルを　山は坂道、登り道　飢の救ひと水の足し　海に行くならキヤラメルを　海は船の上、波の中　漕ぐも泳ぐも力綱
9月16日		余計に食べた　Cちやんが避暑から帰つて来ると…今年は大変丈夫になつた　怎うしたのたらうと言はれて莞爾り「今年はキヤラメルを余計に食べました」
9月23日		船頭可愛や　キヤラメルたべりや　一丈五尺の　櫓が撓る　船頭可愛や　キヤラメルたべて　沖の月夜に　網を引く
10月9日	◆	安全第一！　疫病の流行に際しては胃腸の健全を計るが最も肝要　消化を助け積極的保健に効果ある本品の常用は正に安全第一
10月25日		秋はよし　散歩に　遠足に　旅行に　運動会に
11月15日		面白い懸賞
11月25日		アインスタイン氏相対性原理はニユートンの学説を根本から覆へすかも知れない。　然し、森永ミルクキヤラメルの栄養価値は絶対である。

1923
大正12

1月11日	力の源泉
2月7日	エスとノー　キヤラメル愛用家の母親に育てられた坊やは未だ口は利けないが、エスとノーだけの表情を見せる。そしてキヤラメルを与えなければ必ず頭を横に振る。
2月21日	好い著眼　Bさんに早く大きくなつてお兄さんのやうに立派な体躯におなりなさいといへば「そんなら僕はキヤラメルをもつと食べやう…」
3月21日	弾力ある皮膚の美は　常に筋肉を培へ…内面に営養せよ
4月14日	遠乗りに　春はよし　花もよし　愛用の高潮期
4月23日	森永ミルクキヤラメル　読書の机にも…散歩の袂にも

1923	大正12	5月12日	東西切つての人気！
		7月24日	絶巓！　登山者の意気天を衝き　キヤラメルの声価地を蔽ふ
		8月6日	海は水を辞せず　故に能くその大を成し　山は土を辞せず　故に能くその高を成す　吾はキヤラメルを愛す　故に能くその健康を保持す
		11月8日	奮進　復興へ…建設へ…　天馬空を行く　愛用者の意気
		12月6日	森永ミルクキヤラメル
		12月14日	可愛い意見　御覧よ坊やはこんなに肥る　父う様だん〳〵痩せて行く　お酒や煙草をのむのをやめて　お家のみんなが大好な　おいちい〳〵これ食べて　坊やのように肥つて頂戴！
		12月26日	自適　閑に居て美味を忘れず　繁に処して滋養を怠らず……とはキヤラメル愛用家の処世訓!!
1924	大正13	1月10日	活動の単位　精力の根元
		1月26日	奉祝　東宮殿下御慶典
		2月2日	一日に一函　常用として一日に一函づゝ一年間召しあがつたならあなたのお躯がどんなにお丈夫にお成り遊ばすでせう
		2月22日	太郎さんの元気　大寒小寒　太郎は家へ　駆けこんだ　大寒小寒　太郎は外へ　飛んで行つた　キヤラメル持て飛んで行つた
		2月24日	メンタルテストに備へよ！　学びの友として　勉みの母として　滋養清点　健康を増し　頭脳を明快にす
		3月10日	花――語らずといへども人自ら群をなす桃李の下
		3月27日	この成績！　此健康の保護者と　滋養のお友達とによつて
		4月25日	遠足の注意　先生から生徒へ　一、何々　一、何々　一、何々　一、何々　一、森永ミルクキヤラメル
		4月28日	活動の単位　精力の根元
		5月4日	菓子界の焦点　年産額　弐億五千万函
		5月6日	散策のポケットに
		5月17日	名にし負ふ…
		5月22日	力　全身に漲る　愛用の元気
		5月25日	鵬翼万里　嗜好界の寵児には国境もなければ季節もない
		6月5日	奉祝
		6月13日	梅雨の日の日記
		7月23日	森永デー　森永ココア無料接待　於富士山頂上
		7月30日	雲分けて　登る山路の道しるべ　渇には泉・餓に糧　登山の好伴侶
		8月25日	…の表現！　栄養の象徴！

1924	大正13	9月5日	太郎さんの化粧法　姉さんのお化粧を見て太郎さんが笑つた「顔ばかり白粉を塗つたつて駄目だ。僕の内面化粧がホントの健康美だ」と云つてキヤラメルを食べる
		10月8日	売上高世界一　営養力充実
		10月26日	みどりの山は紅に……！　嗜好は同じ
		11月10日	天地の声曰く
		12月4日	贈答に意義あり　森永の菓子
		1月13日	◆呼声高く　ヒガーィシー　キヤラー……ケ……岳
		1月23日	坊つちゃんも嬢ちやんも　キヤラメル食べて強く大きく
		2月7日	◆ニセモノあり森永に御注意
		2月26日	一目瞭然！　御常用には必ず
1925	大正14	3月10日	少年少女諸君よ！　皆様の御健康は栄養の選択に依ります　御両親よ！　選択を誤つてお子さんの健康を害ふてはなりません！
		3月17日	体育の第一義　先づ栄養に醒めよ　成長期の体育は生涯の健康を確立致します　体育の内面的要素即ち栄養の充実には何よりも先づ
		3月27日	坊つちゃんも嬢ちやんも　キヤラメル食べて強く大きく
		3月29日	食べるほど　伸びる身長　殖へる体重
		4月20日	花の見頃　キヤラメルの味！
		4月26日	伸びよ、育てよ　キヤラメルたべて元気に丈夫に
		5月11日	初夏　体力の充実に…　気力の滋養に…
		5月15日	旅行に…　散歩に…
		5月17日	日の下関山　滋養の横綱！
		5月24日	旅行に…　散歩に…
		5月29日	力の糧を　うんと食べて　うんと勉強！　うんと運動！
		6月12日	元気に　愉快に
		6月17日	梅雨　油断すな！　健康に　栄養に
		6月26日	甲種合格！　徴兵検査官「酒や煙草はのむか」　壮丁「いいえ、のみません。その代りキヤラメルをたべます。」
		7月4日	中元　暑中　御贈答品に　森永の菓子
		7月21日	頂上　美味滋養の重畳だ
		8月17日	栄養の充実に
		9月7日	アサガホサイタ　ハヤオキシタラ　サイタカズホド　キヤラメル　モロタ！
		9月13日	胃の保健　疫病の流行に際しては胃腸の健全を計るが最も肝要　消化好く滋養に富み積極的保健に効果ある本品の常用は胃の安全を図るに第一
		9月23日	これ即ち　美味　滋養　一語にすればキヤラメルだ！　無限に広がる　美味滋養！

1925	大正14	10月11日	森永の菓子　三大逸品　森永ミルクチヨコレート　森永ミルクキヤラメル　森永ビスケット
		10月18日	菓子界の焦点　年産額　三億函
		10月27日	森永のキヤラメル　味は五いろ　とり〴〵甘い　皆にすかれて　よく売れる
		10月31日	森永のキヤラメル　味は五いろ　とり〴〵甘い　皆にすかれて　よく売れる
		11月7日	紅葉よし　真紅に燃ゆる山々の　眺望に飽かぬ菓子は…キヤラメル
		11月14日	読書に　散策に
		3月1日(夕)	◆斯うすれば丈夫になる　日に一函のキヤラメル召せば…疲労は除かれ精力は補はれ健康は日一日と増して行きます…
		3月5日	◆斯うすれば丈夫になる　日に一函のキヤラメル召せば…疲労は除かれ精力は補はれ健康は日一日と増して行きます…
		3月13日	風味佳し…
		3月22日(夕)	風味佳し…
		5月17日(夕)	口においしく　からだに滋養
		5月23日	森永の菓子　主要製品　森永ミルクキヤラメル　森永ミルクチヨコレート　森永ビスケット
		6月28日(夕)	お子様方のためになる　おもしろい算術の問題大懸賞
1926	大正15／昭和元	7月12日(夕)	◆斯うすれば丈夫になる　日に一函のキヤラメル召せば…疲労は除かれ精力は補はれ健康は日一日と増していきます…
		7月19日(夕)	山へ行くなら忘れずに…　飢を満す補ひに　渇を医す潤ひに
		8月7日	滋養衛生本位
		8月23日(夕)	夏の保健には衛生が第一！　故に夏季唯一の健康増進法として滋養衛生を本位とする森永ミルクキヤラメルの御愛用を奨む
		8月30日(夕)	そゞろ歩きに…
		9月6日(夕)	海の勇士帰る　漆黒の顔は健康を語る　然も注意は今からが大事　忘れてはならぬキヤラメルの愛用!!
		10月4日	風味佳し…
		10月26日	秋だ！　頭も体も　要求する
		11月29日(夕)	巍然たり！　その滋養と風味　その品質と廉価　正に最高の権威
		12月18日	森永の御贈答品
		12月21日	寒さに耐へる健康の力は…　内面の充実　即ちキヤラメルの栄養に求めよ

先述のとおり、森永製菓が箱入りのミルクキャラメルを発売したのは一九一四（大正3）年のことであった。早くも翌年になると「読売新聞」紙上には「煙草代用」のスローガン入りの広告があらわれる[37]。子どもの発育への効用を強調する例が若干見られるものの、初期は「煙草のみ過ぎて　頭脳の悪き人　又た太らぬ人　煙草の代用に　他の嗜好を求めらる、人」（大正4年6月26日、29日）、「勇ましい旅装で行け山に・河に・野に」（同年9月12日、29日）、「長時間勉学の倦怠も　終日活動の疲労も　常用せば元気を快復し無限の精力を増進す」（同年10月19日）、「煙草代用の第一弾」（大正6年10月2日）のように、文案から浮かび上がる商品のターゲットは専ら大人である[38]。「国産主義」（大正3年10月17日）、「輸入煙草代用品の防止」（大正4年10月23日）のように国産であることをアピールする例、あるいは「現代の必要品」（大正4年1月31日）、「時代の要求」（同年4月4日）といった言葉でその新しさを強調したり、「四大要件」として「消化、滋養、風味、清潔」を掲げたりしている（大正6年6月17日、22日）点は、先に指摘した合理性を重んじる中間層のライフスタイルとの合致がうかがえる。

大正5年4月19日には「字さがし」という懸賞広告が見られる。三枚の絵からそれぞれ「国産」「モリナガ」「キャラメル」の文字を探し当てる出題である。挿絵は女児・男児・母子を描いており、その画風は「子ども絵」[39]風であるものの、賞品には「一等・貯蓄債権（額面金五円）、二等・漆器菓子器、三等・組合せ文房具」というように大

人向けのものが並んでいる。

時代が下るにつれて、文案には次第に子どもや母親を意識したものが増えていく。「母よ　忘れますな　愛児のために」（大正7年11月10日、17日）や「嬢やのノドをと、のへて　坊やのカゼもひかせぬは」（大正8年2月11日）は親向けであり、子どもの健康への関心に訴えかける文案だが、前者の「母」は洋装に帽子とバッグを身に着けたモダンな女性として描かれており、どのような階層の母親を意識しているかは明白である。また大正10年には「坊やの意匠」（1月26日）、「美ちゃんの発案！」（2月27日）、「花ちゃんの喜び」（3月14日）のように、子どものあどけない言動を通してキャラメルの美味しさや効用を伝えようとする広告が頻出している。「花ちゃん」の広告のなかで中学受験を控えた兄が机のひきだしにキャラメルをしのばせているという設定は、前出の武井武雄「おひきだし」の少女と通じるところがあり興味ぶかい。煙草代用、文明的嗜好品として出発したキャラメルが、広告の上でも大正中期あたりを境に次第に子どもたちへとターゲットをシフトしていったことが見て取れるからである。多少のブレは散見されるものの、それを裏書きするかのように翌大正11年以降、「煙草代用」のスローガンは広告からほぼ消滅する。

懸賞にも変化が見られる。大正15年6月28日の夕刊掲載「森永ミルクキヤラメル　お子様方のためになる　おもしろい算術の問題」は、タイトルのとおり子どもをターゲットにした企画である。「森永ミルクキヤラメルの一日製造高は六十五万函です　今一函の中味二十粒を一列に並べるとその長さが約三十六センチメートルになります　然らば一年間（三百六十五日）に製造せられる中味を全部一列に並べると地球の赤道を何回取巻く事が出来ますか」との出題で、賞品には自転車、オルガン、時計、バイオリン、キャッチャーミットなどが並ぶ。数多い賞品のなかには復興債権なども含まれており全てが子ども向けとは言えないが、前出の「字さがし」と比較したとき、十年の間にキャラメルの宣伝対象が大人から子どもへと変化、または拡大した様子を知ることができる。

大正8年9月6日の広告には「森永五品」として、新製品の「バニラチヨコレート」「ミルク」「ミルクココア」とともに「ミルクチョコレート」「ミルクキヤラメル」が挙げられている。さらに大正14年10月11日の広告では「三大逸品」の一つに数えられている[40]。生産量に関連するものとしては、大正13年5月4日の広告で「年産額弐億五千万函」と謳っていたものが、翌年10月18日の広告になると「年産額三億函」にまで上昇している例も確認できた。大正後期に至って、キャラメルは広告の上でもすっかり看板商品として定着をみせている。

五

一九二三（大正12）年四月三日の「読売新聞」には、当日開店した「森永キヤンデーストアー」の広告が掲載されている。ここには「今回弊社多年の理想を実現致しまして来る四月三日より丸の内ビルヂング内に純然たる米国式森永キヤンデーストアーを開店致します」「文

化生活に相応しい衛生滋養を兼ねたる良品を簡易安価に提供致します」といった案内文と並んで、蝶ネクタイの洋装にステッキを手にしたモダンな男性が丸ビルを指さしている絵が描かれている。前年末の本社移転につづくこの丸ビルへの進出には、自社の成長をアピールすることや製菓業全体の社会的地位を高める狙いがあったという[41]。関東大震災などによる不況のため本社は短期間で丸ビルから退去することになるが、実物宣伝を目的としたキャンデーストアーはその後も銀座、品川、日本橋など東京市内はもとより、大阪、横浜、名古屋、香港、大連など一九三三（昭和８）年までに一六店が開店している[42]。

同じ丸ビル内ではライオン歯磨（小林商店）もショールームを開設しており、社員の戸田達雄が装飾や展覧会を担当していた。当時一九歳の戸田はこの丸ビルでの仕事を通して村山知義らと知り合い、マヴォの活動に参加、その縁で一九二四（大正13）年ごろから『子供之友』にも作品を寄稿するようになるのだが、ほぼ同時期に森永製菓の社員とも接点を持ち、童画の仕事の場を広げている。以下の引用内に登場する「絵雑誌」はおそらく『コドモキング』[43]を指すのであろう。

大正十二年の春、東京駅前に丸ビルが完成し、ライオンではその一階の一角に「丸の内ライオン歯磨」という、ショールームを開設した。売店、陳列棚、うがい場などのほか、客寄せに展覧会場をも設け、画家や写真家に無料で作品展示の壁面を貸し、一般客に無料で見せた。私はそこにある二つの大ショーウインドの装置係になり、月に二回ずつの飾り替えと、展覧会の運営を担当することになった。ライオンはもう株式会社になっていた。

このショーウインドが縁となってか、ある日、当時森永製菓勤務だった藤沢竜雄、室田久良三（庫造）の両氏がきて「こんど新しく子供の絵雑誌を出すから、毎号二ページ見開きの絵と文を二枚ずつ描かないか」とのことで、よろこんで描かせてもらうことにした。（中略）絵雑誌の毎月三十円の画料は、その後ナマイキにライオンを飛び出して貧乏暮らしをした私をかなり長いこと助けてくれた。[44]

彼らの出会いの場になった丸の内は、当時最新のビジネス街であった。初田亨は『繁華街の近代――都市・東京の消費空間』のなかで、従来の貸事務所の構造が「仕切りの壁を最下階から最上階まで縦に通してつけ、それぞれの区画ごとに専用の出入口と階段、設備を設けた、いわば「長屋式」」であったのに対して、大正中期に現われた丸ビルや東京海上ビルヂングが「建物の入居者が出入口や設備、廊下、階段を共用し、部屋だけを借りる、現在一般的にみられる貸事務所と同じ形式の、いわば「アパート式」とでも称することのできる建築」であったことを指摘したうえで、建築物におけるこうしたヨーロッパ式からアメリカ式への転換を「この時期に日本の都市の社会構造が大きく変化し始めていた」ことの暗示と読み解いている[45]。さらに関東大震災を経て、丸の内はビジネスの集積地の性格をより強め、銀座とともに東京の顔へと成長していく[46]。

そして、そのようなビジネスセンターとしての丸の内の性格づけをはっきりさせ、それを強くおし進めるきっかけとなったのが東京駅の開業であり、さらにその後、一九二三年（大正12）年九月一日に起きた関東大震災であった。

関東大震災によって、東京の市街地の多くは焼け野原となるが、そのなかでも、江戸時代から続いた繁華街のある下町は壊滅的な打撃を受けた。それに対して、丸の内は比較的被害が少なく、結果的には震災によって焼失した、京橋、日本橋方面にあった事務所の多くが丸の内に移転することにもなったのである。その様子は、震災前の一九二二年（大正11）に丸の内にあった会社や事務所の数が五一四だったのに対して、震災の翌年である一九二四年（大正13）には一五一四と、三倍ほどにふくらんでいることからも容易にうかがえる。（中略）また、鉄道の乗降客数も、一九二三年（大正12）にはそれまでの上野駅にかわって東京駅がトップになり、通勤時のラッシュが深刻な問題になり始めている。（中略）

やがて丸の内は、これらサラリーマンの憧れの場所になっていく。東京行進曲に「恋の丸ビルあの窓あたり、泣いて文書くひともある」とうたわれるように、丸の内は、若い人々にとって、ロマンスの舞台にもなっていったのである。[47]

博覧会土産から引き出しのなかの日常品へ、煙草代用の文明的嗜好品から遠足のおやつへ。原材料の安定供給や大量生産体制の確立を背景として、大正中期にキャラメルの受容層は大人から子どもへと広がりをみせる。東京の文化やビジネスの中心地は銀座や丸の内へと転換しつつあり、広告や商業美術に携わる若者たちの交流も生まれつつあった。[48]『子供之友』の西洋菓子表象は、この変化ときれいに重なりながら推移したと言える。この一致は絵雑誌のなかでもモダニズムの影響が色濃い『子供之友』特有のものなのだろうか。さらに他誌へと検討対象を広げることを今後の課題としたい。

（1）昭和初期の概況については拙稿「森永製菓の児童文化関連事業―昭和初期の状況・池田文痴菴文庫を手がかりとして」（『愛知淑徳大学論集 メディアプロデュース学部篇（第5号）』（二〇一五年）等を参照されたい。

（2）加藤理は文化主義の勃興を背景として、児童文化協会が設立された大正10年を「現在確認しうる一定の概念を込めて「児童文化」という言葉が使用され始めた初出の時期」としている。（加藤理『「児童文化」の誕生と展開――大正自由教育時代の子どもの生活と文化』港の人、二〇一五年、二四九頁）

（3）一九四三（昭和18）年の休刊までに計三五七冊が発行された。

（4）千葉公子（婦人之友社代表取締役）「メッセージ」（図録『描かれた大正モダン・キッズ―婦人之友社『子供之友』原画展』、二〇一六年、七頁）

（5）同時代の新聞広告では「教育的絵雑誌」といった分類名も確認できる（『子供之友』五月号広告「読売新聞」大正5年4月13日朝刊、第一面）

（6）「お母様方へ」（『子供之友』創刊号、大正3年4月、三五頁）

（7）未見の号は次のとおり。大正8年5月号、6月号、10月号、11月号、大正14年9月号。なお、合本等を含むため調査済の号にも欠頁の可能性があるが、複本の比較調査には着手できていない。

（8）上太郎・中太郎・下太郎、甲子・乙子・丙子と名付けられた六名の子どもたちの生活態度を絵で並置し、読者の子どもたちが楽しみながらその優劣を判断できるよう工夫された生活絵話。創刊から最後まで続いた「名物コーナー」であった。（図録『描かれた大正モダン・キッズ―婦人之友社『子供之友』原画展』前掲書、一九〇頁参照）。

（9）子ども時代に『子供之友』でこの作品に接した飯沢匡は、動物たちの意匠に「土俗玩具」との共通性を見出している（飯沢匡『脱俗の画家――横井弘三の生涯』筑摩書房、一九七六年、四二頁）。

（10）（9）に同じ。四一頁。

（11）「北澤楽天と『子供之友』」（図録『描かれた大正モダン・キッズ―婦人之友社『子供之友』原画展』前掲書、六六頁）。また羽仁説子は「子どもを愛した楽天さん」（『子供之友原画集4北澤楽天』婦人之友社、一九八六年、五八頁）のなかで、「その恰好は大島の和服に袴、上等の畳表の草履というりゅうとしたいでたち」と当時の楽天を回想している。

（12）楽天は一八七六年生まれ。村山は一九〇一年生まれ。創刊号から『子供之友』の絵画主任を務めた楽天は大正6年8月号まで表紙絵を手がけ、その後は作品数が減少していく（図録『描かれた大正モダン・キッズ―婦人之友社『子供之友』原画展』前掲書、三二頁参照）。

（13）村山、武井、岡本はいずれも一九二七（昭和2）年に結成された「日本童画家協会」の創立メンバーである。

（14）湯澤規子『胃袋の近代――食と人びとの日常史』（名古屋大学出版会、二〇一八年、九頁）

（15）武田尚子『ミルクと日本人――近代社会の「元気の源」』（中央公論新社、二〇一七年、一五七頁）

（16）（15）に同じ。一六一頁。

（17）キャラメルの製造自体は一八九九（明治32）年の創業時に始まっている。また紙箱に先立ち一九〇八（明治41）年にはブリキ小缶入を発売したが、コスト高のため不成功に終わったという（森永製菓株式会社編『森永製菓一〇〇年史――はばたくエンゼル、一世紀――』平成一二年、五八頁）。

（18）（17）に同じ。五九頁。

（19）（17）に同じ。五九頁。

(20) (17) に同じ。七〇～七一頁。
(21) 松生「商売の秘訣」(『菓子新報』大正4年4月10日、一頁)
(22) (17) に同じ。七六頁。掲載図版によると、文案末尾の「採るよ」は、正しくは「取るよ」である。
(23) 「総合年表」(『森永製菓一〇〇年史――はばたくエンゼル、一世紀――』前掲書所収) によると、大正3年7月10日の広告で「煙草代用」のスローガンが初めて使用されている。
(24) (17) に同じ。五八頁。
(25) 天野正子「おやつ――遊食同源性のゆくえ」(『モノと子どもの昭和史』平凡社ライブラリー、二〇一五年、二三七頁／原著『モノと子どもの戦後史』吉川弘文館、二〇〇七年)
(26) 本田和子『子ども一〇〇年のエポック――「児童の世紀」から「子どもの権利条約」まで』(フレーベル館、二〇〇〇年、二二六～二二八頁)
(27) (26) に同じ。二三六～二三八頁。
(28) 神野由紀『子どもをめぐるデザインと近代――拡大する商品世界』(世界思想社、二〇一一年、一八六頁)
(29) (28) に同じ。一八六頁。
(30) (15) に同じ。一七三頁。
(31) 『月島調査(生活古典叢書6)』(光生館、一九七〇年、一五九頁)
(32) (31) に同じ。二〇八頁。
(33) (31) に同じ。二〇一頁。
(34) (17) に同じ。五三頁。
(35) 検索語「森永製菓」および「森永製菓ＡＮＤキャラメル」でそれぞれ大正期の広告記事のみを対象に検索(二〇一九年一月一七日最終確認)。紙面と照合の結果、検索で抽出から漏れている広告が見つかった。可能な限りそれらも含めたため、(表2) の広告件数は計二五四である。
(36) 時代が下るにつれて「タバコ代用」の表記例もあり。
(37) 同年には片岡敏郎が森永製菓に入社しており、(表2) の広告中には彼が手がけたと推測されるユニークな事例が数多くみられるが、本稿の趣旨から外れるため今回は言及しない。
(38) むろん、これには大人を主たる読者層とする新聞であるがゆえという可能性も否めない。子ども向けの媒体を含めた広告の詳細な分析については、今後の課題としたい。
(39) 「子ども絵」については 上笙一郎『日本の童画家たち』(くもん出版、一九九四年) 等を参照のこと。
(40) 他の二つはミルクチョコレートとビスケットである。
(41) (17) に同じ。八二頁。本社は大正15年5月に丸ビルから退去している。
(42) (17) に同じ。八七頁。
(43) 『コドモキング』は月刊絵雑誌。一九一五(大正4)年創刊(推定)。現物確認できた第18巻第1号(昭和7年1月号)には「東京市神田区表神保町二番地、児童教育社発行」とならんで「東

京市牛込区薬王寺町71　藤澤アトリエ内、『コドモキング』編輯部」の記載がみられる。この藤澤アトリエの主宰者が藤沢竜雄だと推測される。

『現代商業美術全集（別巻／解説・月報・総目次ほか）』（ゆまに書房、二〇〇一年）によると、藤沢は一八九三年生まれ。東京高等工業学校工業図案科在学中に第一回広告画図案懸賞募集で入選し、ポスター作家として出発。卒業後は日本紙器製造株式会社に入社するが一九二一年に森永製菓に転職。図案部で意匠主任として商業美術の制作に従事した。一九二四年には藤澤図案社を神田に興し、雑誌『商店界』でも活躍（のち同誌の図案部長に）。戦前から戦後にかけて童画の仕事も多い。

(44) 戸田達雄「大正時代の話」（日本デザイン小史編集同人編『日本デザイン小史』ダヴィッド社、一九七〇年、一一頁）

(45) 初田亨『繁華街の近代――都市・東京の消費空間』（東京大学出版会、二〇〇四年、一九八～一九九頁）

(46) 震災後の銀座は童画の誕生地ともなった。武井武雄は当時を回想して次のように述べている。

　僕は大正十三年（ママ）、震災の翌年でまだバラックのような建物でしたが、銀座の資生堂で、それまで少しずつ描きためたものの個展をやったんです。さしえというのは用途で、そういうものに抵抗してやる展覧会だから何とかその意味を謳わなければならない。けれど適当な名前もないから「武井武雄童画展」という名でやったんです。これは童話、童謡などという言葉があるのだから童画となるのが自然な帰趨であって、僕の創作的なものは何もないわけです。ただはじめて使ったということですね。

（武井武雄・談「『コドモノクニ』の頃」『月刊絵本』第2巻第1号、盛光社、昭和四九年一月、四一頁）

(47) (45) に同じ。一九九～二〇〇頁。

(48) 例えば、一九二五（大正14）年、杉浦非水が教え子たちと共にポスター研究団体「七人社」を結成している。

〈追記〉

・引用部の旧字体は新字体に適宜改めた。

・本研究は平成二八年度愛知淑徳大学研究助成（特定課題研究）の成果の一部である。なお本稿は、公開研究会「大正期の子ども文化をめぐって」（二〇一七年六月三日、於刈谷市美術館）での口頭発表「大正期の子どもたちと西洋菓子――『子供之友』掲載記事を手がかりとして――」に基づくが、その後の調査を踏まえて中盤部を中心に加筆を施した。

・『子供之友』の調査に際しては刈谷市美術館学芸員の松本育子様に、また「あめやさん」の図版掲載に際しては村山治江様に大変お世話になりました。ここに記して感謝申し上げます。